

# 逗子の景観まちづくり

## 瓦版 第八十六号

『庚申塔』との出会い

田中 慶美

逗子に転居して5年になりました。

見知らぬ土地でありましたが、景観広報誌「瓦版」の展示を、逗子の美しく趣ある風情を興味深く、心動かしながら拝見しました。それが、「瓦版」との出会いでした。

コロナ下で、様々なイベント、講習、体験教室等が中止となり始めていた頃で、逗子市が発行する、「逗子自然の回廊ガイドマップ」片手に夫と市内を散策しました。暗中模索な行動でしたが、これまでに発行さ



「三猿」 田中 慶美

二〇二五年一月十五日 次号は四月発行予定  
編集 逗子市環境都市部まちづくり景観課  
協力 NPO法人逗子の文化をつなぎ広め深める会  
募集 逗子の景観スケッチや六百五十字以内の  
景観に関するコラム等を募集しています。

れた「瓦版」に掲載されたスケッチ・コラムを思い返し、関係のみなさまの逗子の景観への熱い想いに触れました。様々な場所を訪れた中で、神社や川沿いの道端、山並みなどを背景に様々な場所に佇む、逗子の石仏「庚申塔」に惹かれ、調べたくまりました。図書館に素晴らしい資料が整っていました。「逗子道の辺史話」、「路傍の石仏」を参考に、私好みの庚申塔がある場所を求め三猿にも出会えました。日光東照宮の「見える、言わざる、聞かざる」の三猿は、「悪いことを見てはいけない、言っていない、聞いてはいけない」という「教えで有名な説です。自宅付近の田越神明社の庚申塔の見応えある彫刻がなされた、三猿の可愛らしさ、あどけなきに温かく見守られている感じがして、何度も足を運ぶ場所になっています。金剛寺の力強い邪鬼の姿に圧倒され、再訪時に光のお陰で三猿の存在を突き止めました。多くの人に、愛でられてきた証だったのかと改めて、三猿の愉快な自由な動きに心奪われました。石仏から、その場所の魅力を感じ、逗子を知るきっかけにもなりました。



「山並みの風景」 故及川 洋一

庚申塔への思いを今現在でも引き継ぎ、保存して大切に育んでいらっしやる地域の方々の、心の豊かさに感謝しつつ、まちの中でその石仏を含めた素晴らしい場所が伝承されていくことを願っております。そしてこれからも逗子の魅力を見つけていきたいと思う1人です。

二四九・八六八六

逗子市逗子五丁目二番十六号

「逗子市まちづくり景観課 瓦版係」

電話 〇四六・八七三・一一一

ファックス 〇四六・八七三・四五二〇

machi@city.zushi.lg.jp



市制 70 周年記念 景観シンポジウム・『瓦版』 展示開催  
—『瓦版』から始まる景観づくり—



景観シンポジウム

1月25日(土) 10:00~12:00 開場 9:30

会場 逗子文化プラザホール さざなみホール 入場無料 | 予約不要

○プログラム

第1部 第2回まちなみデザイン逗子賞 表彰・認定

[まちなみデザイン逗子] 逗子の景観における魅力紹介

第2部 会場一体型トークイン

『瓦版』から始まる景観づくり

『瓦版』展示

1月23日(木)~26日(日) 10:00~16:00

会場 逗子文化プラザホール 市民ギャラリー

○展示内容

瓦版・逗子の文化をつなぎ広め深める会ニュースレター

まちなみデザイン逗子賞 その他逗子市の景観に関する資料

第2回「まちなみデザイン逗子賞」について

逗子市景観条例の表彰制度に基づき近年、条例手続を行い完成した  
もの(条例部門)と、一般募集した「まちなみデザイン逗子」実践ス  
ポット(一般部門)から選出しました。

2012年に瓦版 第1号が発行されました。現在、  
86号に至るまで、多世代の市民が逗子の風景をコラ  
ムと絵で綴っています。



一覧はこちら



逗子の景観についてシンポジウムで共有しませんか

○市制 70 周年記念景観シンポジウムにあたり | 逗子の文化をつなぎ広め深める会 故永橋為成氏のことば |

景観とは、歴史を重ねて自然と人間がおりなした今のすがたです。戦後の日本は経済至上主義のまちづくりで、環境も美的な面でも  
どん底状態になってきました。逗子にもその傾向がみられますが、逗子は低層の木造家屋が主体の家並みの住宅地として心地よい雰囲気  
がいまも多く残っています。日本の優れた伝統を継承発展させて、市民の手で暮らしやすい逗子のまちづくりを進めたいものです。



撮影 小川重雄

まちなみデザイン逗子賞 後藤邸

山の根の丘陵にのぼる谷戸における家なみ景観に、森の中に埋もれるよ  
うに佇んでいるお宅があります。まちなみデザイン逗子賞を受賞した後藤  
邸(設計者自邸:後藤武+後藤千恵 後藤武建築設計事務所)です。崖地の  
傾斜に沿う様に2層のボリュームを配置  
した構成となっており、テラスや室内各所  
から丘陵の緑を望むことができます。

茶室を備え、外部階段からルーフテラスへ出て山並みを感じながらにじり口  
へ、その空間の展開の楽しさと、家のまわりの緑地を守っていかうといったこと  
に逗子らしい暮らしと、まちなみデザインを感じました。(まちづくり景観課 兼子)



瓦版編集担当 逗子市環境都市部まちづくり景観課

瓦版のバックナンバー・瓦版冊子は逗子市庁舎二階、まちづくり景観課窓口、市民交流センターに配架しています。